

# GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

2015-16 Rotary International District 2760 ガバナー月信

2016  
June

# 6



写真：赤津の陶房

※掲載されている写真等の無断転載はご遠慮ください。



Be a gift to the world

世界への  
プレゼントになろう



## CONTENTS

- 02 ガバナーメッセージ
- 03 ロータリー親睦活動月間月間
- 04 ガバナーエレ外活動報告

### 【委員会報告】

- 05 ○2016-17年度 地区研修・協議会
- 07 ○第2回 地区内クラブ青少年奉仕委員長会議 報告
- 08 ○被災高校生支援委員会 報告

### 【クラブ活動報告】

- 10 ○第2760地区 春の親睦野球大会 結果報告

### 【周年式典報告】

- 11 ○名古屋名駅ロータリークラブ
- 12 ○常滑ロータリークラブ
- 13 ○西尾KIRARAロータリークラブ
- 14 ロータリーコーディネーターニュース
- 15 ハイライトよねやま
- 17 文庫通信
- 18 会員数及び出席報告



# ガバナーメッセージ

ガバナー 加藤 陽一



去る4月27日から5月1日まで、当地区から派遣した職業研修チーム(VTT)の激励ならびに視察のためにインドネシア・ジャカルタを訪問してきました。ロータリー財団のグローバル補助金を使った第3410地区との共同事業で、現地では当地区から派遣した精鋭7名の医師・看護師・薬剤師の皆さんが2週間にわたる医療技術指導を行っていました。

ヒダヤット地区ガバナーとの昨年1月のサンディエゴ以来の再会に始まり、滞在中はエイド役のエバ副ガバナー(パストガバナー)や多くのロータリアン達と有意義な時間を共有し、ロータリー組織の奥深さを満喫しました。連日の熱烈歓迎食事会では地元ロータリアンたちの活発な奉仕活動の紹介が続き、またスラムに住む子供たちへの教育支援施設では『人間形成』にも重点を置き、宗教過激派グループの洗脳活動から自らを守るため「善悪を分別し行動する力」を育てるという、お国の事情による奉仕活動の違いを知る貴重な経験もしました。

とにかく出会ったロータリアンたちは皆さんとてもホットで心優しい。宗教上の規則のためレストランでビールを飲めないと心中落胆していると、早速翌日からは車にクーラーボックスを持ち込んでくれ、中には何と冷たいビールが3ダース。3年前にガバナーを務めていた時に「外国からの援助だけではダメ」と自らロータリー財団に多額の寄付を行い「アーチ・クランフ・ソサエティ」のメンバーとなり、地区内の奉仕活動をぐいぐいと引っ張るエバ副ガバナーの『日本から来た気の毒な男』に対する心配りにすっかり感激いたしました。

2億5千万人の人口ながら、ようやく4年前に2地区に分かれたばかりのインドネシアですが、お隣の3420地区と力を合わせながら着々と力強くロータリーの奉仕の精神が浸透していることを痛感した視察訪問でした。

BE A GIFT TO THE WORLD !!





## ロータリー親睦活動月間について

RI理事エレクト 齋藤 直美



ある猿のグループの縄張りの異なる集団が森で遭遇すると、双方とも大声を出して仲間を集め対立威嚇し合うが、相手の数が多いと解ると相手に道を譲るようだ。霊長類はそんな知恵を持っていて互いに相手を傷つけ殺し合いをすることを避けているらしい。とりわけ表情筋の発達したチンパンジーは相手の表情を見て判断するようだ。つまりコミュニケーションは相手あってのことで相手の対応を見て自分の反応を決めているらしい。表情筋から言語という道具を獲得した人間はこの道具を使ってコミュニケーションを拡げ互いの高次な交流を作り上げてきたという。つまり親睦活動と称するものである。

僕は4月5日、日本を飛び立ってシカゴ(米国)に入った。規定審議会前の理事会にオブザーバー出席するためだ。規定審議会を15日午前で終え16・17・18日の3日間9:00~17:00までみっちり理事会オブザーバー出席の義務を果たし19日はホテルで安息日を過ごし21日に帰国。この7日より18日の間に開催された会議は夕方5時にピタリと終わる。その後ほとんど毎日ホスピタリティーと称するワインとお喋りタイムが約40分間位開かれる。そして各自が夕食に散ってゆくかあるいはその場の隣の部屋で招待ディナーとなる。そして問題はワイン片手のホスピタリティーだが「どこの国から?何年?クラブの人数は?日本に来たことはある?あなたの国の〇〇は有名だね。」と杓子定規の質問がいきかいそこから先へは進まない。つまり言語の壁である。ワインによるリラックス効果もホスピタリティーにならない。でも表情筋の動きを見事に捉えニッと笑い「では明日またネ!」となる。こうしてみると親睦の基本である言葉を操って自分の考えを伝え、相手の考えを理解することに言葉がいかに大事かが解る。相手を理解するためには言葉の「純度」と「深度」を推し進めないとなかなか相手を理解できない。ゴルフに興じカラオケに夢中になってもこの二つの「度数」は深まらない。互いの人生を語り恥を喋り、企業を家庭を語らないと相手に伝わらない。だが困ったことに言葉にすると文字にするととたんにウソっぽく浮いてしまう。それでも1割2割解ってもらえば親睦への糸口となると思う。

親睦活動月間は「クラブの中で自分を語る」ことを意識的に実行してみる1ヶ月と考えてみてはどうであろうか?表情筋を豊かに使い乏しい語彙を一生懸命駆使して相手に自分を解ってもらう努力の1ヶ月間にしたいものだ。できることなら「ロータリー用語を使わず自分の言葉で」である。



## 2016-17年度 地区研修・協議会

次期地区副幹事 林 和夫



「2016-17年度 地区・協議会」が平成28年4月24日(日)ウェスティンナゴヤキャッスルにおいて、登録者数1,530名で盛大に開催されました。本会議は服部良男ガバナーエレクトの点鐘で始まり、加藤陽一ガバナー挨拶、田中正規次期地区研修リーダー挨拶、そしてガバナーエレクトの所信表明、相澤光春・恒久基金/大口寄付アドバイザーより「ロータリー財団100周年」の説明がありました。

ガバナーエレクトは次期RI会長ジョンF. ジャーム氏が提唱する国際ロータリーのテーマ「人類に奉仕するロータリー」と地区方針「Be The Rotarian, Find A Rotarian ~真のロータリアンになろう、ロータリアンを見つけよう~」について熱く語られました。奉仕とは、困っている人と一緒に課題を解決することであり、その結果、人が笑顔になる活動です。そして笑顔を共有するためには地区の重点課題として「オンラインツールとソーシャルメディアの活用」を掲げ次の点を強調されました。

1. My Rotaryへの登録とその活用をすること。
2. Club Centralへ情報を入力して、ロータリアンでシェアすること。
3. ソーシャルメディア(Facebook, Twitter等)でロータリーのブランドと奉仕活動の成果をオープンにし、共有し、広報につなげること。

その後、9分科会に分かれ、次年度に向けて活発な討議、意見交換がなされました。分科会終了後、再び本会議場にて9分科会の発表そしてガバナー講評を頂き、ガバナーエレクトの点鐘により、地区研修・協議会は無事終了するとともに次年度の地区および各クラブの活動が大きく動き出しました。

地区・協議会のための指導者会議と併せて、ホストを務めて頂いた岡崎城南ロータリークラブの皆様には大変お世話になり感謝申し上げます。



## 第2回 地区内クラブ 青少年奉仕委員長会議 報告

地区青少年奉仕委員会 委員長 寺本 善雄



「第2回 地区内クラブ青少年奉仕委員長会議」が5月15日(日)、キャッスルプラザにて開催されました。加藤ガバナー、服部ガバナーエレクト、神野ガバナーノミニーはじめ特別出席者、本年度と次年度のクラブ青少年奉仕委員長、地区委員合わせて110名を超える参加をいただきました。

青少年奉仕月間が前年度までの9月から5月に変更になったことに合わせて、前年度までは3月に開いていたクラブ委員長会議を5月開催とし、本年度と次年度のクラブ青少年奉仕委員長にご出席いただき、年度報告と共に次年度へ向けての準備の会議として位置付けました。

加藤ガバナーのご挨拶に続き、RI研修リーダー、RIローターアクト・インターアクト委員などのRIの要職を歴任しておられる第2680地区(兵庫県)のpastガバナー三木明様にご講演をいただきました。「ロータリーの青少年奉仕活動の歴史」を分かりやすく解説していただき、「RI規定審議会の最新情報」、「危機管理の重要性」、そして二宮尊徳翁の言葉やボランティアの語源から「奉仕は心から湧き出てくるいわば即興演奏であり、まず心を作ることが大切」など、貴重なご意見をいただきました。続いて地区青少年関連5委員会と危機管理委員会から今年度の活動報告がありました。その後12のグループに分かれて、「自クラブの青少年奉仕活動について 現状と今後の展開」のテーマで報告していただき、併せて服部年度の最重点課題として掲げる、「SNSを利用したロータリーブランドと活動成果の共有と広報」の具体的展開についても意見交換をしました。

懇親会では、グループディスカッションでの話題をさらに深めるなど、今年度の締めくくりと次年度に向けての方向性を確認し決意を固める有意義な会となりました。



## インドネシアへの医療研修チーム 派遣事業について

職業研修チーム委員会 委員長 福田 哲三



現地での加藤ガバナー歓迎会

職業研修チーム委員会（VTT委員会）は4月23日～5月7日までインドネシア・ジャカルタ（RID 3410地区）に医療専門家チームを派遣し、「院内感染の予防管理」の研修指導を行ってきました（R財団のグローバル補助金事業）。派遣メンバーは名古屋市立大学病院の中村教授はじめ医師3名、看護師2名と薬剤師2名の7名です。

23日の出発直前の21日には名古屋東急ホテルで派遣メンバーの壮行会を開催し、加藤ガバナーや服部ガバナーエレクトをはじめ地区の広報、国際奉仕、職業奉仕各委員長や財団委員会委員、藤田保健衛生大学病院の眞野副院長など約40名が激励に参加してくれました。

現地ではマヤパダ病院を中心に連日熱心な実務研修が行われました。26日と27日に開催したシンポジウムでは連日300名を超える現地医療関係者が出席し大成功を収めました。全体を通して非常に大きな研修成果が期待されます。



空港にて派遣メンバー見送り



滅菌器の寄贈式



子供たちに教材を手渡す加藤ガバナー



研修を視察中の加藤ガバナー

27日～30日までは加藤ガバナーも現地視察&激励にご訪問いただき、ヒダヤット3410地区ガバナーとの再会、マヤパダ病院&マラティ病院での視察、現地ロータリアン達との交流やスラム地区での教育活動参加など多岐にわたってご活躍いただきました。また鈴木R財団委員長、吉川VTT副委員長、加藤浩一ポリオプラス委員にも現地でVTTメンバーの激励支援ならびに両地区間の交流に花を添えていただきました。

6月4日～12日には3410地区の代表としてマヤパダ病院から4名の医療関係者が当地区を訪れ、名古屋市立大学病院、藤田保健衛生大学病院、名古屋市厚生院、大同病院の4施設で研修を受ける予定です。



## 被災高校生支援委員会 報告

被災高校生支援委員会 委員長 本多 満



5月25日(水)、最後の地区被災高校生委員会・懇親会が「料亭つたも」にて開催されましたので以下報告をいたします。まずもって、当委員会は3年間の被災高校生支援事業が、3月初めをもって無事に終了したことを報告させていただきます。第2520地区サポートRC、NPO、及び第2760地区の会員の皆様のご支援、ご協力により奨学生が高校を卒業し、次の進路(進学、就職)に進むことができました事を、委員会を代表して心よりお礼申し上げます。委員長より、委員会の皆様に支援事業の修了報告と、お礼を述べました。千田パストガバナー、加藤ガバナーからは、本事業が成功裏に終わることができ、奨学生が次のステップ、社会に向かって元気よく進んで行けたことが何よりも嬉しい事であり、またこの事業を通じてロータリー精神の意義を感じたと挨拶をいただきました。





議事次第によって、

- 1) 寄付金収支の決算、監査が地区幹事大竹様他により行われ終了したことを、会計担当の松田委員より報告がありました。
- 2) 記録誌の編集、発行が6月下旬を目標に準備が進められていますと、委員長が報告し、編集途中の記録誌が委員に回覧されました。
- 3) 本年12月に開催される「ロータリー研究会」セッション3で被災支援事業の発表が予定され、奨学生の事例発表を計画しています。また全国のガバナー他ロータリアンに本事業についての体験話を発表出来ることは、当委員会にとっても非常に名誉なことと委員長が話をしました。

委員会終了後、懇親会が開催されました。アドバイザーの思い出話に、事務局員の参加に大いに盛り上がりました。また幫間の桂川さんの余興が入りさらに盛り上がりました。杉浦アドバイザーの乾杯で開始し、柳澤元地区幹事の締め挨拶と三本締めがあり、最後に大橋アドバイザーの発案で、「手に手を繋いで」で締めくくりました。今までになく賑やかな中、懇親会が終了しました。

最後に改めて、第2520地区サポートRC、NPO、及び第2760地区の全会員の皆様に、本事業への協力を感謝いたします。



## 第2760地区 春の親睦野球大会 結果報告

豊田西ロータリークラブ

世話人代表 小幡 輝雄



さる、5月18日・20日に第2760地区春の親睦野球大会が豊田市日毘公園野球場において開催されました。当日は、両日も快晴の好天に恵まれ合計3試合が行われました。世間では、プロ野球も盛り上がりを見せる中、半年ぶりの試合となる対戦では有りましたが、それぞれのチームで練習やトレーニングを重ねた成果も随所に見ることができました。お互いのファインプレーに歓声が沸き、エラーや珍プレーには笑いの生まれる和やかな雰囲気の中での試合となりました。試合終了後は、互いの健闘を讃え合いロータリアン相互の親睦を図る良い機会になりました。

試合結果は、下記の通りとなります。

### 【 試合結果 】

5月18日 第1試合	名古屋中RC	10	×	2	豊田中RC
5月20日 第1試合	豊田東RC	15	×	9	混成チーム
第2試合	豊田RC	7	×	3	豊田西RC

# 周年記念式典報告 I



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER June 2015-16 Rotary International District 2760

## 名古屋名駅ロータリークラブ 創立25周年記念式典の報告

クラブ情報委員会 委員長 加藤 祐一



平成28年4月20日、名古屋名駅ロータリークラブ創立25周年記念式典にRI第2760地区、加藤陽一ガバナー及び大竹一義地区幹事をお迎えしました。また、当日は、当クラブ会員（会員総数78名のうち67名が参加）・家族やOB会員に加え、来賓として西名古屋分区の関係の皆様、姉妹クラブである台北建成ロータリークラブ会員とご家族、トークショーに参加して頂きました竹下景子様、歴代の椿賞(\*)受賞者、米山奨学生など、総勢159名の方々にご参加を頂きました。

加藤ガバナーからは、祝辞の中で、(1)名古屋名駅ロータリークラブは、椿賞をはじめとした数々の活動に取り組んでいる。これらはロータリアンとして素晴らしい活動であり継続して取り組んでもらいたい。(2)米山記念奨学会に対する特別寄付に感謝する。旨のお話をいただきました。また、7月からガバナーエレクトに就任する当クラブの神野重行君に対して激励の言葉をいただきました。

その後、加藤ガバナーご出席のもと、記念トークショーとして当クラブの基本理念である「名駅から世界へ」を題材にして、名古屋出身で俳優の竹下景子様、椿賞受賞者である名古屋大学教授の森川高行様、及び清水順二当クラブ会長が、NHKアナウンサー柿沼郭様の司会により、名駅から世界を目指すには、今何が発信できるのか、何を発信するべきかを、熱く語っていただきました。

記念式典終了後に記念晩餐会を開催し、当クラブの同好会であるオール・カメハメハ・バンドのウクレレ演奏、コール・カメラと椿賞受賞者の金原聡子様による合唱で大いに盛り上がりました。

(\*)椿賞とは… 良い社会環境創りに努力している個人または、団体を表彰対象とする当クラブ独自の表彰制度であり、創立時より年1回の表彰を継続している。

# 周年記念式典報告 II

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER June 2015-16 Rotary International District 2760



## 常滑ロータリークラブ 創立50周年記念式典の報告

常滑RC 幹事 渡邊 茂央



1966年5月常滑ロータリークラブは、半田ロータリークラブをスポンサークラブとして、その産声を上げました。50年後、2016年5月8日(日)常滑市長片岡憲彦様、国際ロータリー第2760地区加藤陽一ガバナーはじめ、地区・南尾張分区役員の皆様、多数のご来賓の皆様をお招きし、我々の例会場でもありますあいち知多農業協同組合本部ビルにて創立50周年記念式典及び交流会を開催いたしました。地元の方をお招きし地元で開催するという事で、準備から設営・運営と常滑らしい手作り感溢れる式典となりました。

当クラブの現役会員の2名が、常滑ロータリークラブ在籍50年を迎えました事を記念しまして、在籍50年表彰をさせていただきました。2名のうちの1名はチャーターメンバーであります。50周年記念事業として、ロータリー財団と米山記念奨学会への寄付。また、この度熊本地方を襲った地震で被災された第2720地区(熊本・大分)へ、第2760地区を通じて義捐金を贈らせていただきました。今回の周年事業は「社会奉仕」をテーマとし、地域であまり目立つことなくボランティア活動を行っている団体及び個人に対し、常滑ロータリー賞として10団体、9個人の方々を選考し、それぞれ表彰させていただきました。地元のボランティア団体・個人を表彰する事業は、創立以来初の試みであります。地元を向けてみると、多くのボランティア団体・個人が活動されている事に驚きました。ロータリークラブとして様々な事業を実施している中、今後毎年表彰していくかどうかは未定ですが、節目の年度には何らかの形で地元を向けて顕彰する事が意義ある活動であると自覚しました。

式典後の交流会では、バンド演奏によるアトラクションで、50年前の曲を中心に懐かしの名曲を聞きながらのお食事、ご歓談をいただき、和やかな雰囲気の中、創立50周年記念式典、交流会を終了する事が出来ました。



## 西尾KIRARAロータリークラブ 創立25周年記念式典の報告

創立25周年実行委員長 辻村 義之



西尾KIRARAロータリークラブ(以下「西尾KIRARA」といいます)は、5月15日(日)、三河湾リゾートリンクスに於いて、創立25周年記念式典を行いました。第2760地区加藤陽一ガバナーから予め祝詞、さらに祝電も頂きました。榊原西尾市長及び西三河分区杉浦世志朗ガバナー補佐を始め、分区内8クラブ会長・幹事、長年交流している第2630地区伊勢度会ロータリークラブなどのご臨席を頂き総勢130人程となり大変盛り上がりました。

記念式典は、小学生の大正琴の演奏と可憐な舞でスタートしました。創立25周年記念事業として実施した、西尾市肴町大名行列保存会に対する「子供用先箱の寄贈」、三河安城ロータリークラブと合同によるフィリピンのマニラ近郊トンド地区における子ども達の為の「教育施設支援事業」、西尾市立一色中学校での「出前授業」、今年3月の「小笠原諸島(父島)中学生6日間の旅」を各紹介しました。特に小笠原の旅の映像は、好奇心旺盛な中学生たちのさわやかな笑顔や、最終日の島民総出の観を呈した港における島踊りやブラスバンド、さらに海上にまで多くの漁船を繰り出しての“おがさわら丸”見送りシーンは圧巻で、つい涙しました。式典には、中学生も舞台に登場し、磯貝会長の気さくな質問によるトークショーとなって会場が沸きました。西尾KIRARAの会員による駐車場係、受付係、会場設営係など総出でお客様への感謝の気持ちを表し、また、会員間の仲間意識を高める意義ある1日となりました。

西尾KIRARAは、これからも誇りと自信をもって今の活動を続け、今後も、輝く地域社会に貢献していきたいと思えます。



## 3年目のロータリーコーディネーターを終えるに当たり

国際ロータリーは2010年に会員数の伸び悩みを打破すべく戦略計画を策定し、その計画に基づき諸施策を実行してまいりましたが、残念ながらこと会員数に関する限り未だ十分な成果を上げたとは言えません。勿論私自身コーディネーターとしての実力不足、努力不足を反省しなければいけないのですが、最後に感じたことを申し述べたいと思います。

そもそもロータリー活動と言うものは本質的に自発的なものであり、強制されるべきものではないので、クラブには大きな自主権が認められております。CLPにせよ、クラブ戦略計画にせよ、実行しなければロータリークラブとして認めないと言うことではない、むしろ本年度の規定審議会の結果を見れば、クラブ自主権は拡大される方向にあるとも言えます。では会員増強の為にどうしたら良いのかと言えば、「我々は何故ロータリアンであり続けるのか?ロータリーの魅力とは何か?」と言う設問に対しての、地区やクラブのリーダーの皆様方の発信力を磨くということに尽きるのではないかと思います。上記の設問に対するしっかりとした回答を、地区やクラブの皆様方お一人お一人に良くお考えいただきたい、そしてそれをしっかりと集約して頂きたい、それが地区やクラブの戦略計画策定の最大の目的なのではないかと思います。得てして日本人は保守的な傾向が強い、そして「和をもって尊しとなす」に表されるように突出した意見や急激な改革を好まない傾向があるように思われます。もちろんその良さもあるのが日本の社会ではありますが…。現在のような少子高齢化や、中央一極集中が急激に進展し、格差が開いてきている状況では、いつまでも前例踏襲では困るのではないのでしょうか?前例踏襲を打ち破るためにもリーダーの皆様方の徹底した話し合い、即ち戦略計画策定が必要なのではないのでしょうか?良く考えますとこの問題は決してロータリーだけの問題ではない、むしろ今の経済社会状況の閉塞感を考えれば、日本全体の問題ではないかと思う次第であります。

もともとロータリーはその特徴的な「職業奉仕」の精神によって、日本の経済社会に与えた良い影響は大変大きいと思います。そのように考えていくとき、ここにこそ日本のロータリーの進むべき新しいフロンティアが見えてくるような気がしてなりません。曰く、若者や女性や退職高齢者の入会を促し、地方やわが町を活性化するために努力し、より合理的で生産性を向上させて少ない会費で効果を上げる、これはそのまま、一億総活躍社会の実現であり、地方創生運動であり、生産性の向上による経済の活性化であります。つまり、ロータリーにせよ、日本全体にせよ、求められるのはイノベーションであります。私たちが社会に対して負っております責任を思い起こし、ロータリーの再興と日本社会の再興に向かって立ち上がろうではありませんか!その為にはクラブのお一人お一人の勇猛心を期待して最後のご挨拶としたいと思います。長いこと有難うございました。



## 寄付金速報 — 残り2カ月もよろしくお願ひします —

4月までの寄付金は前年同期と比べ4.6%増、約5,700万円の増加です。普通寄付金が0.8%増、特別寄付金が6.4%増となりました。今月は大口寄付金を多くいただいたことにより、今期累計で13億円に到達することができました。皆様からのご支援に深く感謝申し上げます。本年度も残り2カ月弱となりました。普通寄付金をまだお送りいただいていないクラブがありましたら、お早目にご送金くださいますようよろしくお願ひ申し上げます。

## 熊本地震に学友からの支援が続々

4月14日と16日、熊本県熊本地方で震度7を観測する大地震が発生しました。被害を受けた皆さま、今なお避難生活を余儀なくされている皆さまへ、心よりお見舞い申し上げます。

第2720地区（熊本・大分）米山記念奨学委員会は、同地区米山学友会と連携し、すぐに現役奨学生と学友会メンバーの安否を確認して、全員と連絡を取ることができました。奨学生・学友の中には自宅が損壊し、一時的に避難生活を送った人もいますが、現在は安全な場所に移っています。

このニュースに米山学友が続々と支援に立ち上がりました。

まだ余震がつづく20日、米山学友のジギャン・クマル・タパさん（2008-09／横浜たまRC）らは「ネパール大地震の恩返しをしたい」と、神奈川県から熊本市まで電車を乗り継ぎ、在日ネパール人の皆さんとともにカレー炊き出しをしてくださいました。

第2640地区（和歌山・大阪）米山学友会では21日、義援金30,000円を第2720地区「ロータリー熊本地震総合支援室」へ送金してくださいました。

中国米山学友会（上海）からは27日、「かつてお世話になった日本のロータリーへ復興の手助けをしたい」と、学友たちが出し合った194,894円が当会へ送金され、全額を当会から第2720地区の上記支援室へ送金しました。

また24日には、第2720地区米山学友会が大分市内7クラブ合同ロータリーデーにてバザーと募金活動を行い、全額の156,945円を熊本へ寄付しました。大分県のみなさんもまだ不安が続くなかでの活動です。同学友会の全紅女会長は、「みんなの温かい気持ちが熊本に届き、これからの復興に少しでも役に立つことができれば……」と、祈りを込めて話してくださいました。

皆さんのお気持ちに感謝いたします。



## 博士号取得状況 — 報告お待ちしております —

2015 学年度（2015 年 4 月～2016 年 3 月）に博士号を取得した奨学生・学友は 50 人、累計では 3,562 人です（5 月 11 日現在）。米山記念奨学会では、博士号を取得した奨学生・学友に、お祝いの腕時計をお贈りしています（奨学期間後の取得でも OK!）。名前入りの、世界にただ一つの時計です。博士号を取得した奨学生・学友の皆さんは、米山事務局に報告してください。

※発送先は、原則として世話クラブです

### 申請方法

「学位記の写し」か「学位取得証明書」を世話クラブ経由で米山奨学会へ FAX またはメールでお送りください。

(FAX : 03-3578-8281/メール : [scholars@rotary-yoneyama.or.jp](mailto:scholars@rotary-yoneyama.or.jp))



ぜひ世話クラブの例会で贈呈を！

文字盤の裏にお名前が入ります

## ソウル国際大会では、米山ブース & 分科会へ GO!GO!

いよいよ 5/28(土)からソウル国際大会が始まります。かねてよりご案内の通り、米山記念奨学会では「友愛の家」にブース出展するとともに、今大会では初めて「分科会」を開催します。この「分科会」では、母国で素晴らしい活躍をしている学友のスピーチや、活発な学友会の活動を報告し、60 年以上にわたって留学生を支援し、世界に平和の種をまいてきた米山記念奨学事業の成果を世界のロータリアンにご覧いただきたいと思います。



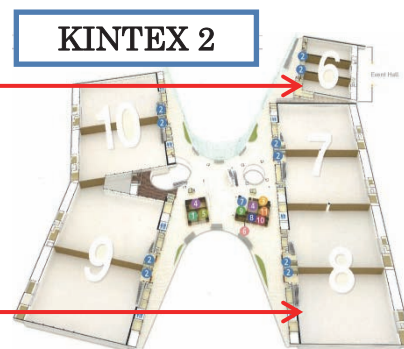
言語は日本語で行いますが、英語と韓国語の同時通訳もごさいますので、ぜひ海外や韓国のご友人を誘ってご参加ください。（日本語⇄韓国語の同時通訳は、プロ通訳者として活躍中の米山学友が行います）

### 【ソウル国際大会・米山分科会】

- ◆ タイトル：米山記念奨学会の成果：世界に平和の種をまく  
(Rotary Yoneyama Memorial Foundation: Sowing the Seeds of Peace)
- ◆ 日時： 5 月 30 日 (月) 15:30-17:00
- ◆ 場所： Hall 6C-2 (KINTEX 2)
- ◆ 言語： 日本語（英語・韓国語の同時通訳有り）

### 【米山ブース】 よねやま親善大使や米山学友がお待ちしております！

- ◆ 期間： 5/28 (土) ～6/1 (水)
- ◆ 場所： 「友愛の家」(KINTEX 2 Hall7・8) Rotary Projects エリア
- ◆ ブース No. : 2703 (出口 8A 近く)



### 今後開催される海外米山学友会総会のご案内

- モンゴル米山学友会 2016 年 6 月 11 日 (土) 15 時～祝賀会 19 時～懇親会  
会場：ウランバートル市、コーポレートホテル、2F 大会議室 連絡先：nbolormaa211@gmail.com (幹事 ポロルマー)
- スリランカ米山学友会設立総会 2016 年 6 月 25 日 (土) 15 時～ コロンボ市 Galadari Hotel

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会  
〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル 3F  
Tel : 03-3434-8681 Fax : 03-3578-8281

E-mail : [highlight@rotary-yoneyama.or.jp](mailto:highlight@rotary-yoneyama.or.jp)  
URL : <http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>  
編集担当：野津(のづ)・峯(みね)





「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約2万3千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

## ロータリー情報

- ◆ 「Rotary Magic」 江崎柳節 / 2016 / 12p (D.2710月信地区大会特集号)
- ◆ 「ロータリーにおける意志と信頼」 ビチャイ・ラタクル / D.2550 / 2015 / 43p (D.2550地区大会記念講演)
- ◆ 「ポール・ハリスとロータリー」 諏訪昭登 / 2016 / 7p
- ◆ 「入り手学ぶ奉仕の心」 安孫子貞夫 / 2016 / 4p (D.2800月信)
- ◆ 「ロータリーは円形ではない。楕円形である。」 塚原房樹 / 2016 / 1p (D.2510 月信)
- ◆ 「転轍手待望論」 塚原房樹 / 2016 / 2p (D.2510 月信)
- ◆ 「クラブ定款は自分のクラブ独自のものか？」 櫻木英一郎 / 2016 / 1p (D.2790 月信)
- ◆ 「ロータリーの目的 その1～4」 深川純一 / 2015 / 4p (純ちゃんのコーナーPartXIV)
- ◆ 「決議23-34」 東大阪みどりR.C. / 2016 / 2p (ロータリーの歴史に学ぶ)

**〈 ロータリー文庫 〉**

**申込先** 〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15黒龍芝公園ビル3階 TEL / (03)3433-6456 FAX / (03)3459-7506  
 開館 / 午前10時～午後5時 休館 / 土・日・祝祭日 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>

**第2760地区  
HPより、  
随時受付中!**

### 2015-16年度〈ガバナー月信〉個人配信 登録方法

HPアドレス▶ <http://www.rotary2760.org/g15-16/go/monthly.html>

**1** 上記のHPアドレス、もしくは第2760地区のHPトップの「ガバナー月信 登録受付中」のバナーよりページを開く。

**2** 登録フォームに自分のメールアドレスを2回入力して、登録ボタンをクリックして登録完了となります。

登録された方には、月初めに月信PDFのリンクが記載されたメールが送信されます。メール内のURLをクリックするだけで月信PDFがダウンロードされ、閲覧していただけます。

※前年度登録されていた方は、再登録の必要はありません





〒460-0003 名古屋市中区錦二丁目15番15号 豊島ビル3階

### ガバナー事務所

TEL. 052-201-2760 FAX. 052-201-1670  
E-mail. governor15-16@rotary2760.org

### ガバナーエレクト事務所

TEL. 052-203-2760 FAX. 052-201-1670  
E-mail. governor16-17@rotary2760.org

### ロータリー財団

TEL. 052-211-2760 FAX. 052-211-0230  
E-mail. fbranch@rotary2760.org

### 米山記念奨学・青少年交換

TEL. 052-228-0808 FAX. 052-211-0230  
E-mail. ybranch@rotary2760.org (米山記念奨学)  
yebranch@rotary2760.org (青少年交換)



国際ロータリー〈第2760地区〉

ガバナー 加藤 陽一